



館長だより

山形県産業科学館

令和 6 年 6 月 1 2 日(水)

発行 館長 加藤 智 一

旬

昨年度一年間、山形、米沢間の新幹線通勤では、様々な経験をさせていただきました。その中の一つ。新幹線に乗ると、前席の背面に取り付けられているアミアミの小物入れに、「トランヴェール」という月刊誌が備え付けてあるのをご存知でしょうか。実はあの冊子、「ご自由にお持ち帰りください」なのです。それを良い事に、実は私、毎月こまめに回収させていただき、仕事の合間に、結構隅々まで拝読させていただきました。中でもお気に入り、山形市在住の作家、柚月裕子氏のエッセイ「旅のまにまに」です。先生が折に触れて感じてこられた旅（人生観を含めた広い意味で）の風景を切り取られて、思いを綴った文章に、毎回感心させられておりました。

実は先日、久しぶりに山形新幹線に乗りました。しかも新型 E8 系。するとあいかわらず「トランヴェール」はそこにありまして、あいかわらず「ご自由にお持ち帰りください」のまま、しかも柚木氏のエッセイもそのまま継続されておりました。もちろん拝読させていただきました。6月号でのタイトルは「旬の旅」。ざっと内容をかいつまんでお話すると、古稀を迎えられて、ハワイ旅行に行かれたご友人との会話。そのご友人は、若い頃の憧れだったハワイに行ってきたとか。かつては、日本の景気が右肩上がり、海外旅行ブーム。友人の多くが、ウキウキとハワイに行っていたとき、ご自分は金銭的な余裕がなく、指をくわえてみていたとか。ようやく今、介護もおわり、金銭的にも時間的にも余裕ができたので、憧れだったハワイへ行ってこられたのだとか。しかしどうも想像していたほど嬉しそうではない。なぜなら、当時思いえがいていた憧れ、ゴムボートに乗って高速船に引っ張ってもらうバンパーチューブもジェットスキーも、もはや体力的に無理だったし、食べ物の好みも変わっているしと、一言

で言えば「旬じゃなかったな」と思えたのだとか。けれどそのご友人は、尾瀬に行く計画を立てて

いるとか。なぜ尾瀬なのか。今の自分の体力、お金、好きな事を考えたとき、尾瀬がまさに「旬」だからだそうです。今を逃したら、きっとそれも「旬」ではなくなってしまふ。

人それぞれ、今でなければ体験できないこと、経験できないことがあって、今の自分にあった「旬」を大切に行動することは、豊かな人生を形成する意味において、大切な決断だと思うのです。旅行ではありません。勉強や習い事においても同じことがいえるのではないのでしょうか。英語習いたい、ピアノ始めたい、留学したい、ボランティアに行きたい、そう思ったらはじめてみましょう。楽しかったら続けし、新しい目標も見えてくることでしょう。年齢は関係ないと思いますよ。「暇になったら」なんて思っているうちは、その人にとって「旬」ではないし、どうせ続かないでしょう。「失敗してもやってみなけりゃわからない」ぐらいの気持ちで、自分の「旬」を信じて、いどんでみてはいかがでしょうか。

消えるために生まれし物



青花紙



つゆ草

NHK の番組「イッピン」を見ていたら出てきました。「水溶性不織布」溶ける布。何でできているのかというと、ポリビニルアルコール (PVA)。スライムの原料と言った方が分かりやすいでしょうか。高校の授業では、冗談交じりに、「この化合物で作った布で水着を作ったら大変なことになるよね。」などと話していたら、水着じゃないけど本当に有ったんだね。この製品、何に使うのかというと、刺繍のフェルトがわりに使います。刺繍ができた後、お湯にしばらく浸すと、あら不思議、溶けてしまうので、刺繍だけが残るというわけです。この性質を利用して、レースのような風合いのアクセサリを作ったりしています。

もう一つ昔から有名なのは、友禅染めで利用されてきた「青花紙」があります。つゆ草で作った染料ですが、水洗いで消える特徴を持っているため、布地に下絵を描くのに打って付けの染料です。

